

## 【論 説】

# 三大都市圏外所在中小都市若年層の 2010 年 国勢調査時点の静態人口データの 相違に関する考察

山 田 茂

### 目 次

- 1 はじめに
  - 1) 両データ間の相違をもたらした要因
  - 2) 考察対象の中小都市と入手したデータ
- 2 大都市圏外所在中小都市における国勢調査結果と登録人口の比較
- 3 むすびにかえて

## 1 はじめに

国勢調査結果と住民基本台帳<sup>1)</sup>に登録された人口（および外国人登録原票に登録された人口）は、地域別に区分された静態人口データという共通の性格を持っている。国勢調査の実地調査は、近年世帯側の非協力などにより都市部ほど困難になっており、その結果にも少なからぬ影響が生じている。他方、原則として住民自身による届出に基づいて更新される住民登録を集計した住民基本台帳人口（および外国人登録原票を集計した外国人登録人口<sup>2)</sup>）にも実際の居住地との相違などの問題点が以前から指摘されている<sup>3)</sup>。

筆者は、山田（2010）・山田（2011a）・山田（2011b）において 2005 年国勢調査の若年層に関する結果を全国の 200 余の市区町について同時点の地域別年齢別登録人口と比較することによって、両データの精度を検討し、高校卒業後数年間に相当する年齢層に問題が多いことを指摘した。また、山田（2012a）・山田（2012b）において 2010 年国勢調査<sup>4)</sup>の東京都区部・政令指

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田) 定都市および三大都市圏に所在する中小都市について若年層に関する結果を同時点の年齢別登録人口と比較することによって、両データの精度を検討し、2005年国勢調査と同様にこれらの地域のデータに問題が多いことを指摘した。三大都市圏以外の道県に居住する人口は全国の約半数<sup>5)</sup>を占めているので、これらの地域に居住する人口に関する両データについても同様の考察を行う必要がある。

三大都市圏以外の地域における2010年国勢調査の実地調査は三大都市圏内の地域ほどではないにしてもかなり困難になっており、その結果にも一定の影響が生じているのではないかと考えられる。

本稿の目的は、三大都市圏外に所在する中小都市(一部の町村を含む)における2010年国勢調査結果と同時点の住民基本台帳人口(および外国人登録人口)の間の相違の状況を、最高年齢層と並んで両データの相違が大きいと考えられる若年層<sup>6)</sup>を中心に考察することである。本稿では中小都市を、2010年10月時点において政令指定都市ではない都市と定義し、三大都市圏の範囲は都道府県を単位として東京圏(東京都と周囲の三県)、名古屋圏(愛知県と周囲の三県)および大阪圏<sup>7)</sup>(大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県市部)とした。三大都市圏外の町村部の登録人口のデータについては入手できたごく一部の町村について簡単に触れる。また、若年層の範囲を山田(2012a)・山田(2012b)と同様に15歳～29歳に限定する。なお、以下では住民基本台帳人口および外国人登録人口を合わせて登録人口とよぶ。

## 1) 両データ間の相違をもたらした要因

両データ間の相違は、大都市圏外の地域においても主に国勢調査の実地調査における対象世帯の把握漏れおよび把握した世帯に関する「年齢」項目の未回答、「国籍」項目の未回答・不実申告<sup>8)</sup>、「住民基本台帳人口」(および「外国人登録人口」)の原データである転居届の提出遅れ<sup>9)</sup>などによって生じているのではないかと考えられる。

まず実地調査における困難度を概ね反映していると考えられる国勢調査結

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)  
果における「年齢」項目・「国籍」項目における「不詳」の発生状況をみておこう。表1-1は、三大都市圏外所在の道県について調査票の回収方法・「不詳」率の水準の関係を示したものである。「不詳」率は全般に2005年調査よりも上昇しており、郵送提出・聞き取りの比率が高い道県において両項目の「不詳」率はやや高くなっているが、全国の水準を超えている県はごく少数である。

表1-2は、三大都市圏外所在の道県所在の市町村のうち国勢調査結果において「年齢不詳」率が特に高い地域におけるその水準と「不詳」の実数およびその地域の「国籍不詳」率を示したものである。両項目の「不詳」率は政令指定都市など人口規模の大きい都市や大学所在地において高くなっているが、政令指定都市以外の大部分の地域では両データの比較において大きな制約となるほどの高い水準ではない。

三大都市圏内の地域における両データの間の相違に関する各要因については山田(2012a)・山田(2012b)においてすでに概観したので、ここでは三大都市圏外の地域における両データの間の相違の最も大きな要因と考えられる転居届の提出遅れについて検討する。

まず年齢別の地域間移動の状況を「住民基本台帳人口移動報告」によってみてみよう。この統計は、市区町村に提出された転入届に基づいて作成されている。「年齢計」についてみると、三大都市圏外に所在する道県では、政令指定都市を除いて概ね一貫して転出超過となっている。この統計の年齢別集計は2010年分から公表されている。表1-3は、2010年における三大都市圏外に所在する道県から他の都道府県への若年層の転出の状況を示したものである。転入届提出者は、高校生の年齢層では15歳の約0.5万人が最高であるが、高校卒業時に相当する18歳には6万人近くまで急増している。19歳では約2.4万人まで急減するが、短大卒業時に相当する20歳では約3.7万人まで増加している。21歳では約2.7万人まで減少するが、22歳では約6.7万人へ大幅に増加している。その後は継続的に減少するが、23歳・24歳でも4万人以上の水準にあり、29歳でも約2.6万人を数える。また、短大卒業

表1-1 三大都市圏外所在道県における調査票の回収方法・不詳率

(単位 %)

地域	調査員 <sup>1)</sup>	郵送 <sup>2)</sup>	持参 <sup>3)</sup>	聞き取り <sup>4)</sup>	年齢不詳	国籍不詳
全国 <sup>5)</sup>	32.3	57.4	0.5	8.8	0.8	0.8
北海道	37.1	55.6	0.9	6.5	0.2	0.1
青森県	55.3	40.5	0.5	3.7	0.4	0.2
岩手県	51.3	44.9	0.5	3.2	0.4	0.2
宮城県	28.9	61.9	0.6	8.6	0.7	0.4
秋田県	54.5	43.3	0.5	1.7	0.2	0.4
山形県	50.0	45.6	0.7	3.7	0.3	0.1
福島県	41.7	51.8	1.0	5.4	0.6	0.4
茨城県	49.5	45.2	0.5	4.8	0.5	0.2
栃木県	40.6	51.0	0.6	7.8	0.9	0.8
群馬県	40.7	53.3	0.8	5.2	0.5	0.4
新潟県	50.7	44.9	0.5	3.9	0.4	0.3
富山県	54.6	41.2	0.4	3.8	0.4	0.3
石川県	51.9	42.6	0.4	5.1	0.8	0.4
福井県	51.0	43.7	0.6	4.8	1.0	0.5
山梨県	51.0	43.6	1.0	4.4	0.5	0.3
長野県	57.8	38.5	0.8	2.9	0.3	0.2
静岡県	34.4	60.8	0.4	4.4	0.6	0.4
和歌山県	56.3	42.2	0.4	1.1	0.9	0.5
鳥取県	54.3	40.5	0.5	4.7	0.9	0.5
島根県	56.3	40.8	0.4	2.4	0.5	0.5
岡山県	37.1	55.2	0.6	7.2	0.9	0.7
広島県	36.6	54.5	0.4	8.6	1.1	1.2
山口県	50.1	45.6	0.5	3.8	0.3	0.2
徳島県	46.1	49.7	1.0	3.2	0.9	0.7
香川県	40.0	52.6	1.1	6.3	1.6	0.8
愛媛県	52.7	41.6	0.5	5.2	0.6	0.6
高知県	37.8	48.1	0.9	13.2	0.8	0.4
福岡県	29.4	58.0	0.5	12.1	0.7	0.9
佐賀県	50.9	44.9	0.9	3.3	0.4	0.3
長崎県	55.0	41.3	0.5	3.3	0.5	0.4
熊本県	53.2	42.9	0.6	3.3	0.6	0.6
大分県	53.4	42.9	0.4	3.4	0.6	0.4
宮崎県	50.9	43.9	0.6	4.6	0.4	0.3
鹿児島県	54.1	41.7	0.8	3.3	0.4	0.4
沖縄県	42.4	47.5	0.8	9.3	0.6	0.6

1)調査員…下記以外の方法による提出。

2)郵送…郵便事業株式会社からの請求金額に基づき算出

3)持参…地方公共団体からの報告に基づき算出

4)対象世帯の世帯員以外からの聞き取り…地方公共団体からの報告(国勢調査令第9条第2項に基づいて調査した一般世帯の数)に基づき算出(都道府県からの概数報告により作成)

5)インターネット(上表では省略)…国勢調査オンライン調査システムを通じて得られた回答受付件数に基づき算出(東京都のみで実施)。全国比率は1.0%。

出所 総務省統計局(2011a)総務省統計局(2011b)

表1-2 「年齢」「国籍」不詳率が高い市区町村

地域	所在道県	〔年齢〕不詳率		
		実数	比率	〔国籍〕不詳率
全国	全国	976,423	0.8	0.8
広島市 中区	広島県	8,958	6.9	7.6
水巻町	福岡県	1,407	4.7	1.4
岩出市	和歌山県	2,169	4.1	1.4
福岡市 博多区	福岡県	8,140	3.8	0.4
福岡市 中央区	福岡県	5,294	3.0	5.0
高松市	香川県	12,220	2.9	1.5
昭和町	山梨県	479	2.7	1.4
北九州市 小倉北区	福岡県	4,490	2.5	1.8
名護市	沖縄県	1,471	2.4	0.8
仙台市 青葉区	宮城県	6,871	2.4	1.6
北島町	徳島県	492	2.3	1.6
福井市	福井県	6,019	2.3	1.5
米子市	鳥取県	3,304	2.2	0.9
岡山市 北区	岡山県	6,485	2.1	1.5
徳島市	徳島県	5,366	2.0	1.3
野々市町	石川県	1,041	2.0	1.7
宇都宮市	栃木県	10,058	2.0	1.8
福山市	広島県	8,933	1.9	2.2
吉田町	静岡県	551	1.8	0.5
浜松市 中区	静岡県	4,364	1.8	1.7
丸亀市	香川県	1,999	1.8	1.0
広島市 西区	広島県	3,295	1.8	2.0
仙台市 若林区	宮城県	2,168	1.6	0.6
松江市	島根県	3,144	1.6	1.8
広島市 全域	広島県	18,922	1.6	1.7
筑後市	福岡県	766	1.6	0.2
裾野市	静岡県	859	1.6	0.5
鹿沼市	栃木県	1,591	1.6	1.5
高知市	高知県	5,316	1.5	0.9
広島市 南区	広島県	2,139	1.5	0.8
倉敷市	岡山県	7,305	1.5	1.6
久留米市	福岡県	4,540	1.5	1.9

1) 「年齢不詳」率が1.5%以上の3大都市圏外所在市区町村を掲げた。

に相当する20歳・21歳を除く各年齢では男性が女性を大幅に上回っている。学校卒業時に相当する年齢において届出を行った場合に限っても転居が大量に発生していることがわかる。

このような若年層の転居の大きな要因である遠方の大学・短大への入学状況をみてみよう<sup>10)</sup>。表1-4は、三大都市圏外所在の大学・短大への他都道府県所在高校出身者の入学状況を示したものである。2010年4月には他

表1-3 三大都市圏<sup>1)</sup>外所在道県からの他都道府県への若年層転出者

(2010年)

年齢	総数	男性	女性
15歳	5,223	2,827	2,396
16歳	2,028	1,136	892
17歳	1,728	930	798
18歳	59,189	35,619	23,570
19歳	23,857	14,888	8,969
20歳	37,353	19,164	18,189
21歳	26,918	13,937	12,981
22歳	66,611	36,052	30,559
23歳	40,265	23,142	17,123
24歳	42,615	25,993	16,622
25歳	37,662	21,182	16,480
26歳	32,860	17,626	15,234
27歳	30,543	15,954	14,589
28歳	27,767	14,340	13,427
29歳	26,161	13,476	12,685

1)東京圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)・名古屋圏(愛知県・岐阜県・三重県)および大阪圏(大阪府・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県)(出所)総務省統計局(2011a)

表1-4 三大都市圏外所在高校出身者の他都道府県所在大学・短大<sup>1)</sup>への入学者数

(各年度の入学者のうち5月1日現在在籍者)

	大学		短大			
		男性	女性	男性	女性	
2010年度	170,677	100,481	70,196	12,212	1,566	10,646
2009年度	171,575	101,736	69,839	12,976	1,542	11,434
2008年度	174,184	103,808	70,376	13,902	1,660	12,242
2007年度	177,290	106,567	70,723	15,285	1,975	13,310
2006年度	176,007	106,646	69,361	16,394	2,256	14,138

1)入学した学部・学科の所在地。(出所)文部科学省「学校基本調査」文部科学省サイト(2010)

都道府県所在高校出身者が大学では約17.1万人、短大では約1.2万人入学している。短大の入学者数は最近数年間減少傾向にあるものの、大学と合計した入学者数は数千人程度の減少である。このような入学者の相当部分は、旧所属世帯を離れて大学・短大周辺に転居していると考えられるが、高校卒業後に就職などで他都道府県へ転出した者も含まれている表1-3の18歳の(届を提出した)転居者数と比べてかなり多い。したがって、他県所在の大学・

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)  
短大への入学者のうち相当部分は、実際には転居していても転入先の市町村へ転居届を提出していないのではないかと考えられる。また、大学・短大卒業後には就業地周辺へ再度転居する可能性が大きい。このような事情が若年層の両データの相違に作用しているのではないかと考えられる。

## 2) 考察対象の中小都市と入手したデータ

ここで次節以降の考察の対象である三大都市圏外に所在する中小都市(町村を含む)の数とそれらの地域に関する2010年国勢調査実施時の年齢別登録人口のデータの入手状況をみておこう。

表1-5に本稿の考察対象地域とそのうちの年齢別登録人口データが入手できた市区町村を示した。表1-6には入手したデータの年齢区分方式別に市町村数を示した。三大都市圏外の中小都市では、三大都市圏内の市区町村と比べて年齢別登録人口データを公表している市町村は少ない。公表している市町村は人口規模が比較的大きい場合が多い<sup>11)</sup>。

今回入手した三大都市圏外の中小都市・町村の登録人口データは200強に達しており、150弱(100市25町20村)にすぎなかった2005年国勢調査時と比べて大幅に増加している。このうち年齢を各歳別に区分したものが大半(135市)であり、5歳階級別にしか区分されていない場合<sup>12)</sup>は比較的少ない(37市)。このうち年齢別データを性別に区分していない5市<sup>13)</sup>も考察対象に含めている。さらに各歳別または5歳階級別登録人口データが入手できた31町12村<sup>14)</sup>も考察対象に加えた。次節ではこれらの市町村を主な考察対象とし、三大都市圏外に所在する9政令指定都市の状況にも比較のために触れる。他方、若年層が区分されていない登録人口データしか入手できなかった11市1町<sup>15)</sup>については、両データの実質的な比較が行えないので、次節の考察では除外した。

また、比較に用いる国勢調査が把握した人口の範囲は次のような基準によって決定した。すなわち、国勢調査の実実施時点について住民基本台帳人口と外国人登録者数を合算したデータが入手できた場合は国勢調査人口のうち

表1-5 本稿の考察対象地域<sup>1)</sup>

所在地域	3大都市圏内の地域 <sup>2)</sup>		3大都市圏外の地域	
	該当自治体総数 <sup>3)</sup>	データ入手	該当自治体総数 <sup>3)</sup>	データ入手
東京都の特別区	23区	18区	—	—
東京都の中小都市	26市	8市	—	—
政令指定都市	10市	9市	9市	9市
奈良県所在の中小都市	12市	12市	—	—
上記以外の中小都市	247市	162市	482市	182市 <sup>4)</sup>
奈良県所在の町村	15町12村	15町12村	—	—
上記以外の町村	164町村	6町	610町167村	16町 <sup>5)</sup>

1)太線枠内は、山田(2012a)・山田(2012b)において考察した。

2)重枠線内が本稿の主な考察対象である。

2)東京圏は埼玉県・千葉県・神奈川県。大阪圏は滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県。名古屋圏は愛知県・岐阜県・三重県。

3)2010年10月1日時点。

4)このうち若年層を細分した年齢別集計が入手できなかった11市は、次節の考察から除外した。

5)福島県古殿町・青森県中泊町・石川県野々市町・同志賀町・静岡県川根本町・広島県府中町・愛媛県松前町・福岡県那珂川町・同篠栗町・同志免町・同水巻町・同筑前町・佐賀県基山町・長崎県長与町・大分県日出町・沖縄県西原町。

このうち若年層を細分した年齢別集計が入手できなかった福岡県宇美町は、次節の考察から除外した。

「(外国人を含む)総数」を、(外国人を除外した)住民基本台帳人口だけしか入手できなかった場合は国勢調査人口のうち「日本人」人口を利用した<sup>16)</sup>。前者は長野県・静岡県などにおいて比較的多く、他の道県では後者が多い。

両データの比較を次節で行う前に、ここで年齢別登録人口データが入手できた都市の人口が各地域ブロックの中小都市の人口総数に占める比率をみておこう(表1-7)。データが入手できた中小都市の人口は、「東北地方・東部」(所在中小都市の人口合計の33.8%)を除く10ブロックでは中小都市全体の人口において40%以上を占めている。人口規模が比較的大きい都市にやや偏っているものの、三大都市圏外に所在する中小都市の若年層については両データ間の相違の傾向の把握は十分可能ではないかと考えられる。なお、この比率は2005年調査時も100%であった奈良県郡部を除いて各ブロックとも2005年調査時と比べて大幅に上昇している。

## 注

- 1) 改正住民基本台帳法の施行に伴い2012年7月9日以降は外国人登録者も住民



表1-6 2010年国勢調査時の年齢別住民基本台帳人口データ<sup>1)</sup>を入手した市町村数(三大都市圏外の道県および奈良県郡部)

政令指定都市 <sup>3)</sup>	所在地域	所属道県名	都市 総数 <sup>2)</sup>		データ入手都市数(年齢区分の方式)				データ入手町村数				
			各歳	5歳階級	考察対象		考察対象外		各歳	5歳階級	考察対象		
					5歳階級	その他 <sup>3)</sup>	3区分など <sup>4)</sup>	考察対象外			3区分など <sup>4)</sup>		
政令	北海道	北海道	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定	東北東部	岩手・宮城・福島	34	24	17	2	0	5	0	0	0	0	0
都市	東北西部	青森・秋田・山形	38	12	8	3	0	1	1	0	1	0	0
以外の	北関東	茨城・栃木・群馬	36	13	11	2	0	0	1	1	0	0	0
市町村	北陸	新潟・富山・石川・福井	58	21	18	3	0	0	0	0	0	0	0
	甲信・静岡	山梨・長野・静岡	48	17	11	6	0	0	3	2	1	0	0
	(奈良県郡部)	山梨・長野・静岡	53	16	13	2	0	1	1	0	1	0	0
	中国	(奈良県郡部)	27	0	0	0	0	0	27	27	0	0	0
	和歌山・四国	鳥取・島根・岡山・広島・山口	52	24	14	9	1	0	1	1	0	0	0
	九州北部	和歌山・徳島・香川・愛媛・高知	47	16	12	2	0	2	1	1	0	0	0
	九州中南部・沖縄	福岡・佐賀・長崎	51	19	14	4	0	1	7	6	0	1	0
	総数	熊本・鹿児島・沖縄	67	23	17	4	0	2	2	2	0	0	0
	総数		511	185	135	37	1	12	44	40	3	3	1

1)2010年9月30日現在のデータを含む。 2)2010年10月1日現在の市数。

3)山口県光市(6歳まで各歳、7~9歳、10代は5歳階級、20代~50代は10歳階級、60代以上は5歳階級など)を含む。

4)全年齢層を3区分(0歳~14歳、15歳~64歳、65歳以上)する方式、10歳階級に区分する方式および高齢層だけを細分する方式。

該当する都市は、北海道美瑛市・同名寄市・同砂川市・同歌志内市・同富良野市・秋田県にかほ市・山梨県大月市・愛媛県松山市・高知県室戸市・福岡県行橋市・同宇美町・宮崎県西都市・沖縄県那覇市。

5)2010年10月現在の政令指定都市。2012年4月に指定された熊本市は政令指定都市以外に区分した。

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

表1-7 若年層の年齢別登録人口データを入力した三大都市圏外所在市町村の人口比率

市町村 の属性	所在地方・道県	該当市町村 <sup>1)</sup>				
		該当市町村の 合計人口(A) <sup>2)</sup>	うち若年層の登録人口データ <sup>3)</sup> を 入手			
			合計人口(B)	比率(B/A)		
政令指定都市 <sup>4)</sup>		9	9,612,511	9	9,612,511	100.0%
政令都市 以外の 都市	北海道	34	2,535,815	19	2,126,167	83.8%
	東北・東部 <sup>5)</sup>	38	3,503,371	11	1,183,262	33.8%
	東北・西部 <sup>6)</sup>	36	2,957,689	13	1,371,765	46.4%
	北関東	58	6,120,298	21	2,632,524	43.0%
	北陸	48	4,143,544	17	2,143,036	51.7%
	甲信・静岡県	53	4,453,897	14	2,196,661	49.3%
	奈良県郡部 <sup>7)</sup>	27	293,561	27	293,561	100.0%
	中国	52	4,758,728	24	3,621,863	76.1%
	和歌山県・四国	47	4,114,194	14	1,848,851	44.9%
	九州北部	51	3,950,965	18	1,946,628	49.3%
九州中南部・沖縄県	67	6,125,876	21	3,719,127	60.7%	
		511	42,957,938	199	23,083,445	53.7%

1)2010年10月1日現在の市および奈良県の町村。他の道県の町村は除外した。

2)2010年国勢調査が把握した人口(外国人を含む)。

3)若年層が各歳・5歳階級に区分されたデータを入力した都市・奈良県の町村に限定し、3区分データなどだけの入手の場合を除く。

4)2010年10月時点の政令指定都市9市に限定し、2012年4月に指定された熊本市を除く。

5)岩手県(奥州市を含む)・宮城県・福島県。6)青森県・秋田県・山形県。

7)奈良県市部は、大阪大都市圏に含めた。

基本台帳に登録されることとなった。

- 2) 国勢調査による外国人の把握数は外国人登録者数をデータが入手できた各地域とも下回っているが、実数の差は大きくない。なお、登録人口総数に占める外国人登録人口の比率は、最も高いと考えられる東京都でも約3.2%(2010年10月1日時点)である。東京都(2010)
- 3) このような相違は、各地の地方自治体のサイトにおいて指摘されている。新潟県小千谷市(2011)ほか

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

- 4) 2010年国勢調査では、インターネットを利用した回答方式が初めて導入された。
- 5) 三大都市圏外の道県の人口は、2010年国勢調査が把握した全国の人口のうち約47.8%（うち政令指定都市は約7.5%）を占めている。
- 6) 2005年国勢調査人口に住民登録の移動数などを加減して算出される県別年齢別推計人口と2010年国勢調査人口との相違からもこのように推測できる。山田(2012a)
- 7) 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」において設定されている大阪圏に人口流入が最近顕著な滋賀県を加えた。また、この統計では奈良県の町村部は大阪圏に含まれているが、人口移動の点では三大都市圏外の地域と共通性が高いので本稿では三大都市圏外所在地域として扱う。総務省統計局(2011a)
- 8) 三大都市圏外所在の道県について国勢調査結果による外国人数をその3ヶ月後の登録外国人数と比較すると、約12.2万人(約20%)少ない。しかし、これらの地域の登録人口に占める外国人の比率は全般に小さいので、両統計の比較には大きな影響はないと考えられる。
- 9) 住民基本台帳法第22条は届出の期限を転入後14日以内としている。他方、国勢調査の調査対象者に関する規定は、3ヶ月以上の居住(予定)者である。
- 10) このような年齢別の移動状況は、国立社会保障人口問題研究所が2011年に実施した「第7回人口移動調査」の結果とも対応している。
- 11) 奈良県所在の町村以外の登録人口は、対象地域の市町村自身が公表しているデータを利用した。奈良県所在の町村の登録人口は、奈良県統計課がサイト上で公表しているデータを利用した。奈良県統計課(2010)
- 12) 20代以上が10歳階級別に区分され、10代までが各歳別ないし3歳階級・5歳階級に区分されている山口県光市を含む。
- 13) 群馬県桐生市・長野県千曲市・愛媛県西条市・高知県室戸市・沖縄県豊見城市。
- 14) このうち15町12村が奈良県所在の町村である。
- 15) 北海道美唄市・同名寄市・同砂川市・同歌志内市・同富良野市・秋田県にかほ市・山梨県大月市・愛媛県松山市・高知県室戸市・福岡県行橋市・同志免町・宮崎県西都市・沖縄県那覇市。全般に公表データの年齢区分は2005年国勢調査当時と比べて各歳別が増えている。
- 16) 国勢調査の市区町村別集計において「総数」のほかに「日本人」に限定したものが公表されている年次は、2013年1月現在1995年分以降である。

## 2 大都市圏外所在中小都市における国勢調査結果と登録人口の比較

本節では、三大都市圏外所在の中小都市若年層に関する両データの状況をブロック別に考察する。

以下において若年層を年齢各歳別または5歳階級別に細分した市区町村別データを比較する前に、両データにおける道県単位の「(全)年齢計人口」の相違についてみておこう。三大都市圏外の地域のうち15道県について2010年国勢調査時点の道県域単位の住民基本台帳人口または登録人口が入手できた。両者を比較すると、すべての道県において住民基本台帳人口または登録人口が国勢調査人口よりも多い<sup>1)</sup>。各道県域の中では、国勢調査人口が登録人口を下回る傾向は、概ね政令指定都市⇒中小都市⇒郡部の順に強まっている。また、この傾向は男性の方が女性よりも強い。これらの傾向は地域外への人口流出の程度を反映したものであろう。

表2-1は、北海道所在中小都市のうち19市について国勢調査結果と登録人口データの状況を示したものである。比較のために札幌市のデータも合わせて示した。

「年齢計人口」についての両データの間関係をみると、江別市の男女・稚内市の男女・恵庭市の女性・札幌市の女性・室蘭市の男性・北見市の男性において国勢調査人口の登録人口に対する上回りがみられるが、差はいずれも2%未満である。それ以外の都市では、国勢調査人口が登録人口を下回っており、差が最大の石狩市では4%近い。

若年層に限定して両データを比較すると、江別市の男女・室蘭市の男性・恵庭市の男女の大学生に相当する年齢層において非常に大きな差が認められる<sup>1)</sup>。

他方、上記以外の各市の男女の幅広い年齢層において国勢調査人口は登録人口を下回っており、下回り率は19歳が最も大きい場合が多い。表2-1では下回り率をマイナスで表記した(以下表2-11まで同じ)。両データの

表2-1 国勢調査人口と登録人口の比較：北海道所在都市 2010年

外国人 を 含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
札幌市	1,913,545	-0.1	16-23,25	16-22,25	19	19	15,24,26-29	15,23,24,26-29	28	28	13.5	-2.0
函館市	279,127	-1.9	15,17,21	16,17	17	16	16,18-20,22	15,18-29	19	22	-8.0	-6.2
小樽市	131,928	-1.8	15-19	15-19	15-19	15-19	20-29	20-29	25-29	25-29	-6.1	-4.6
旭川市	347,095	-3.5	16,17	—	17	—	15,18-29	15-29	20	22	-21.3	-8.8
室蘭市	94,535	0.5	16-25	17,18	20	17	15,26-29	15,18-29	28	19	-6.6	-12.8
釧路市	181,169	-2.8	15-19	—	15-19	—	20-29	15-29	20-24	20-24	-7.7	-8.9
帯広市	168,057	-0.7	15-17,28	15-17,23, 25,27,28	17	17	18-28	18-22,24,26	19	19	-23.1	-14.7
北見市	125,689	0.3	18,20-24	—	21	—	15-17,19,25-29	15-29	27	19	-9.9	-23.1
留萌市	24,457	-2.5	28	24	28	24	15-27,29	17-23,25-27	19	19	-51.3	-56.4
苫小牧市	173,320	-0.5	15-18,25,26	17	16	17	19-24	15,18-29	21	19	-11.1	-14.7
稚内市	39,595	1.0	16-18,21-26	15-18	16	17	15,19,20,27	19-23,29	19	19	-8.0	-6.4
江別市	123,722	1.6	15-23,25	16-23	19	19	24,25-29	24-29	28	26	-6.7	-4.3
千歳市	93,604	-0.6	15,16,18-20	15	18	15	17,21-29	16-29	22	22	-4.8	-8.3
滝川市	43,170	-1.5	—	29	—	29	—	15-28	21	19	-22.6	-19.2
深川市	23,709	-1.3	16,19	—	19	—	17,18,20-27,29	16,18-29	21	21	-35.5	-26.7
登別市	51,526	-2.0	15-17	15,16,29	17	15	18-29	17-28	20	21	-21.5	-20.6
恵庭市	69,384	-0.4	16-22	15,16,18-22	19	19	15,23-29	23-29	26	25	-7.9	-5.5
伊達市	36,278	-2.8	15-17	15-17,28	16	16	18-29	18-27,29	20	19	-49.1	-30.3
北広島市	60,353	-1.4	15-21	15-18	19	17	22-29	19,21-29	26	26	-11.0	-10.4
石狩市	59,449	-3.8	—	—	—	—	15-29	15-29	19	23	-16.9	-10.7

1)小樽市・釧路市は5歳層別集計を公表。2)全市とも外国人を除外。

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田) 差は、留萌市の男女、伊達市の男性において特に大きい。

表2-2は、東北地方西部3県所在の中小都市のうち13市1町について両データの状況を示したものである。山田(2011a)執筆時には入手できなかった東北地方東部<sup>2)</sup>所在の岩手県奥州市・福島県古殿町のデータも示した。「年齢計人口」についての両データの関係をみると、国勢調査人口が登録人口を下回っている場合がほとんどあり、国勢調査人口が登録人口を上回っているのは山形県米沢市の男性および3市の女性だけである。

若年層に限定して両データを比較すると、米沢市の男性、青森県弘前市の男女・同県十和田市の女性において国勢調査人口は登録人口に対してかなり大きく上回っている。

他方、各市の男女の幅広い年齢層において国勢調査人口は登録人口に対してかなり大きく下回っている。両データの差は、秋田県湯沢市の男女・青森県むつ市の男女・山形県長井市の女性・同県酒田市の女性において40%を超えている。

表2-3は、北関東3県所在の中小都市のうち21市について両データの状況を示したものである。「年齢計人口」についての両データの関係をみると、茨城県所在の龍ヶ崎市・神栖市・牛久市の男性において国勢調査人口が登録人口に対してわずかに上回っているほかはほとんどの都市において国勢調査人口が下回っている。

若年層に限定しての両データを比較すると、龍ヶ崎市の男性において非常に大きな差がみられる。

他方、ほとんどの都市の男女の幅広い年齢層において国勢調査人口は登録人口に対して大幅に下回っている。

表2-4は、北陸地方所在中小都市のうち17市3町について両データの状況を示したものである。比較のために新潟市のデータも合わせて示した。「年齢計人口」についての両データの関係をみると、石川県野々市町の男女・金沢市の男女・新潟県柏崎市の男性・新潟市の女性において国勢調査人口が登録人口を上回っているほかは国勢調査人口が下回っている。

表2-2 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較: 東北地方西部所在都市 2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)		「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
青森市	299,520	-2.9	-1.5	17	17	17	17	17	3.3	1.4	18-29	15,16, 18-29	20	21	-17.6	10.9
弘前市	183,473	-1.9	0.1	18-23	18-22	20	19	20	29.8	27.9	15-17, 24-29	15-17, 23-29	28	26	-8.7	-5.4
八戸市	237,615	-2.7	-1.3	15-17	15-17	17	16	17	7.6	0.7	18-29	18-29	20	20	-22.4	-31.2
五所川原市	58,421	-6.2	-2.7	15,17	15	17	15	17	2.3	0.3	16,18-29	16-29	20	19	-36.8	-39.2
十和田市	66,110	-1.0	0.3	15-17, 21-25,28	15-17, 20-25	22	21	22	18.6	25.1	18-20, 26-27, 29	18,19, 26,28	19	19	-28.4	-21.1
むつ市	61,066	-7.4	-3.8	-	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	19	19	-49.3	-56.3
つがる市	37,243	-1.7	0.3	15-17, 20-27,29	16-19, 20,22-29	21	23	21	6.9	6.3	18,19,28	15,17, 18,21	19	21	-7.1	-3.1
中泊町	12,743	-6.3	-4.7	20,26-29	18,20,21, 28,29	26	28	26	38.1	38.1	15-19, 21-25	15-17, 22-27	18	23	-50.7	-43.4
湯沢市	50,849	-4.5	-3.0	-	16	-	16	-	-	1.1	15-29	17-29	19	19	-71.6	-71.1
由利本荘市	85,229	-1.4	-1.9	19,20	17	20	17	20	4.2	1.0	15,18-29	16-18, 21-29	23	19	-9.8	-36.8
米沢市	89,401	2.1	-1.0	20-29	15-19	20-24	15-19	20-24	33.4	0.4	15-19	20-29	15-19	20-24	-1.1	-6.9
酒田市	111,151	-1.4	-1.1	26	17	26	17	26	0.2	0.2	15-25,29	15,16, 18-29	19	19	-26.2	-42.1
長井市	29,473	-1.8	-1.6	16	15,28	16	28	16	1.3	4.8	15,17-29	16-26,29	20	19	-34.3	-42.2
天童市	62,214	-1.2	-0.3	-	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-18.6	-11.0
奥州市 <sup>3)</sup>	124,746	-1.9	-1.6	16,29	15-17, 27	16	16	16	6.7	3.1	15,17-28	18-26, 28,29	20	19	-31.6	-31.2
古殿町 <sup>3)</sup>	6,030	-6.2	-6.8	-	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-27.7	-47.1

1)米沢市・天童市・古殿町は各階級別。他は各歳別集計公表。2)米沢市・長井市は外国人を合算。他は除外。

3)奥州市は岩手県所在。古殿町は福島県所在。2013年2月に年齢別人口データを入手した。

表2-3 国勢調査人口と登録人口<sup>1)</sup>の比較：北関東地方所在都市 2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)		「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果の 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
日立市	193,129	-2.5	-1.9	—	16	—	16	—	0.3	—	15-29	15,17-29	19	19	-17.6	-28.9
土浦市	143,839	-1.6	-1.1	15-17	16	17	16	16	4.2	0.9	18-29	15,18-29	20	22	-14.7	-9.8
古河市	142,995	-2.6	-2.1	—	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	24	23	-9.5	-9.6
龍ヶ崎市	80,334	0.4	-0.8	18-22	15,16	19	16	16	30.5	1.8	15-17, 23-29	17-29	23	27	-10.2	-7.7
取手市	109,651	-2.5	-1.3	15	16,21	15	21	21	0.9	0.6	16-29	17-20,22-29	20	23	-9.2	-5.9
牛久市	81,684	0.1	-0.5	16-19	15,22, 26,29	18	15	15	10.5	2.3	15,20-29	16-21,23-25,27	22	20	-8.4	-8.0
守谷市	62,482	-1.3	-1.0	15	16,17,26	15	17	17	0.6	2.1	16-29	15,18-25,27-29	20	23	-15.8	-8.2
坂東市	56,114	-2.6	-1.8	—	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	20-24	20-24	-11.5	-10.7
神栖市	94,795	0.2	-1.7	27	—	27	—	—	3.4	—	15-26, 28,29	15-29	19	19	-28.1	-32.3
つくば みらい市	44,461	-2.4	-1.0	16,27	17,27	16	27	16	1.4	5.7	15,17-26, 28,29	15,18-26,28,29	20	19	-16.7	-13.0
小美玉市	52,279	-3.3	-2.2	16	15,17	16	17	17	1.7	1.2	15,17-29	16,18-29	20	21	-18.9	-14.0
足利市	154,530	-2.4	-1.7	—	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	20-24	20-24	-13.8	-15.7
佐野市	121,249	-3.2	-2.4	15-17	15	16	15	16	4.1	0.3	18-29	16-29	21	19	-30.0	-23.4
鹿沼市	102,348	-3.2	-2.6	—	—	—	—	—	—	—	16-29	15-29	20	21	-27.0	-27.5
小山市	164,454	-0.9	-0.6	18-21	18,20	19	20	20	7.0	2.3	15-17, 22-29	15-17,19,21-29	22	23	-8.4	-7.4
下野市	59,483	-1.4	-0.5	28,29	15-17, 23,24,28	28	24	24	0.9	6.1	15-27	18-22,25-27,29	19	19	-25.1	-18.3
前橋市	340,291	-2.2	-1.6	15-17	—	15	—	—	4.5	—	18-29	15-29	20	21	-18.1	-12.3
高崎市	371,302	-1.7	-0.4	15-17	16,17	16	16	16	1.7	1.1	18-29	15,18-29	21	20	-18.1	-11.1
桐生市 <sup>2)</sup>	121,704	-2.7	—	—	—	—	—	—	—	—	15-29	—	20-24	—	—	-9.0
渋川市	83,330	-2.7	-2.0	15-17	16	15	16	16	0.9	0.2	18-29	18-29	20	19	-31.8	-27.6
吾岡市	52,070	-2.3	-1.4	—	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	20	19	-36.4	-30.0

1) 坂東市・足利市・桐生市は5歳層個別、他は各歳別集計を公表。2) 足利市・佐野市・桐生市・吾岡市は外国人を含む。他は外国人を除く。3) 桐生市は男女別集計非公表。



表2-4 国勢調査人口と登録人口<sup>1)2)</sup>の比較:北陸地方所在都市 2010年

外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回っている 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
都市															
新潟市	811,901	-0.3	0.3	15-20	17-21	19	19	8.4	12.7	21-29	15,16 22-29	22	23	-4.6	-2.2
三条市	102,282	-3.6	-2.1	17	-	17	-	0.9	-	15,16, 18-29	15-29	19	19	-30.8	-27.2
柏崎市	91,451	0.3	-1.6	15,25	16	15	16	0.5	1.4	16-24, 26-29	15,17-29	20	19	-16.7	-40.3
新発田市	101,202	-3.1	-1.7	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-20.0	-16.4
十日町市	58,911	-3.0	-2.6	-	15	-	15	-	0.7	15-29	16-29	19	19	-61.5	-63.5
燕市	81,876	-2.8	-2.0	17	16	17	16	0.9	1.4	15,16, 18-29	15,17-29	21	19	-30.1	-24.6
富山市	421,953	-2.1	-0.7	15-17	15-17	17	17	2.7	1.9	18-29	18-29	21	19	-10.4	-12.9
魚津市	44,959	-0.1	-1.2	16,28,29	-	29	-	2.0	-	15,17-29	15-29	22	19	-25.5	-40.6
滑川市	33,676	-2.1	-0.7	25-29	25-29	25-29	25-29	2.4	0.9	15-24	15-24	20-24	20-24	-20.0	-18.0
砺波市	49,410	-1.3	-1.0	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-24.8	-23.1
小矢部市	32,067	-2.3	-1.8	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-26.4	-24.0
南砺市	54,724	-3.3	-3.1	15	-	15	-	0.4	-	16-29	17-29	21	20	-43.8	-52.2
射水市	93,588	-2.1	-2.3	15-18	16,17	16	16	4.6	2.3	19-29	15,18-29	22	21	-17.1	-28.8
金沢市	482,361	2.7	1.6	15-27	18-29	21	20	22.7	13.2	28,29	17	28	17	-1.5	-0.7
小松市	108,433	-2.4	-1.9	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-22.5	-20.7
加賀市	71,887	-4.1	-2.1	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	19	20	-36.3	-36.1
野々市町	51,865	12.4	4.7	15,17-26	15-29	21	21	17.2	26.6	16,27,29	-	27	-	-4.3	-
志賀町	22,216	-6.2	-6.0	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	19	19	-56.0	-71.3
宝達志水町	14,277	-6.1	-4.7	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-32.6	-35.4
福井市	266,796	-0.9	-0.9	-	-	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-10.3	-15.7
鯖江市	67,450	-2.1	-1.3	15-17	16,17,25	17	16	9.9	1.6	18-29	15,18-24, 26-29	21	19	-34.7	-27.2

1)新発田市・砺波市・小矢部市・滑川市・小松市・宝達志水町・福井市は5歳階級別、他は各歳別集計を公表。2)福井市・鯖江市は外国人を合算。他は外国人を除外。

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

若年層に限定して両データを比較すると、野々市町の男女・金沢市の男性において非常に大きな差がみられる。

他方、新潟市・金沢市・野々市町を除く各市の男女の幅広い年齢層において登録人口に対して国勢調査人口の非常に大きな下回りがみられる。石川県志賀町の男女・新潟県十日町市の男女・富山県南砺市の男女・同県魚津市の女性・新潟県柏崎市の女性では40%を超える差がみられる。その他の都市も10%台～30%台の差がみられる。

表2-5は、甲信地方および静岡県所在中小都市のうち15市1町について両データの状況を示したものである。比較のために静岡市・浜松市のデータも合わせて示した。「年齢計人口」についての両データの間接関係をみると、松本市の男性を除く各市町村の男女において国勢調査人口が登録人口を下回っている。

若年層に限定しての両データを比較すると、長野県松本市の男女・静岡県川根本町・同県藤枝市の男性において大きな差がみられる。

他方、各市男女の幅広い年齢層において国勢調査人口が登録人口に対して大幅下回っている。50%を超える差が静岡県川根本町の男女・藤枝市の男性においてみられる。このほかの各市の20歳前後の男女においても20%を超える差がみられる。

表2-6には大阪市に近い奈良県北部(山辺郡・生駒郡・磯城郡・宇陀郡・高市郡・北葛城郡)所在の16町村について両データの間接関係を、同じく表2-7には奈良県中南部(吉野郡)所在11町村について両データの間接関係を示した。北部では人口流出が比較的小さい町村が多いのに対して、中南部では急速な人口流出が生じている町村が多い。「年齢計人口」についての両データの間接関係をみると、広陵町の男性など少数の町村の男女において国勢調査人口が登録人口を上回っているほかは大部分の町村において国勢調査人口が下回っている。国勢調査人口が大きく下回っている町村は、東吉野村・下北山村・川上村・天川村・黒滝村など南部に集中している。

若年層に限定して両データを比較すると、国勢調査人口が登録人口に対す

表 2-5 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：甲信・静岡県地方所在都市 2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 上回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)				
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性			
都市																
富士吉田市	50,619	-4.6	-3.3	—	18	—	18	—	3.6	—	15-17, 19-29	20	21	—	38.6	-34.6
長野市	381,511	-2.2	-1.5	15-17	17	17	17	17	0.2	—	15, 18-29	19	19	—	26.9	-26.7
松本市	243,037	0.0	-0.2	15-20, 24-26	15,17-20, 25,28,29	18	19	19	21.6	12.0	21-23, 27-29	27	23	—	4.6	-4.4
上田市	159,597	-2.5	-1.5	—	—	—	—	—	—	—	15,18-29	19	19	—	22.8	-20.4
千曲市 <sup>3)</sup>	62,068	-1.9	—	15	15	15	15	15	0.1	—	16-29	19	—	—	34.7	—
安曇野市	96,479	-3.4	-2.4	15	15	15	15	15	0.2	1.1	16-29	20	19	—	31.2	-26.4
静岡市	716,197	-1.6	-1.6	15-17	16	16	16	16	3.3	0.6	18-29	21	22	—	9.0	-5.6
浜松市	800,866	-2.7	-1.8	16	—	—	16	—	0.1	—	15,17-29	19	19	—	12.3	-16.7
沼津市	202,304	-4.8	-3.2	—	—	—	—	—	—	—	15-29	20-24	20-24	—	14.2	-14.3
三島市	111,838	-1.3	-1.2	—	—	—	—	—	—	—	15-29	25-29	20-24	—	6.3	-8.8
富士市	254,027	-3.3	-2.4	—	—	—	—	—	—	—	15-29	21	19	—	27.8	-28.6
磐田市	188,625	-4.2	-3.0	—	—	—	—	—	—	—	15-29	21	21	—	31.5	-30.4
焼津市	143,249	-2.8	-1.2	15,16	—	16	—	—	3.1	—	17-29	19	19	—	24.6	-35.3
藤枝市	142,151	-2.5	-2.4	15,17	—	16	—	—	5.1	—	18-29	19	20	—	51.3	-32.4
袋井市	84,846	-2.4	-1.2	—	—	—	—	—	—	—	15-29	19	19	—	33.9	-30.9
菊川市	47,041	-2.5	-1.9	—	—	—	—	—	—	—	15-29	19	19	—	34.3	-30.1
伊豆の国市	49,269	-3.5	-1.7	16,17	16	16	16	16	3.1	2.3	15,18-29	20	19	—	41.4	-31.8
川根本町	8,074	-5.0	-5.3	16	—	16	—	—	7.5	—	17-29	20	20	—	78.4	-71.4

1)沼津市・三島市は5歳階級別、他は各歳別集計を公表。2)長野市・松本市・千曲市・安曇野市・三島市・富士市・磐田市・藤枝市・袋井市・菊川市は外国人を合算。他は外国人を除外。  
3)男女別集計は非公表。

表2-6 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較: 奈良県北部 2010年

外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 上回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
山添村	4,107	-4.7	16	—	16	—	8.3	—	15,17-24, 26-29	16,18-29	21	19	-40.0	-50.0
平群町	19,727	-4.5	—	16	—	16	—	4.0	15,17,19-29	15,17,19-29	23	21	-17.4	-12.8
三郷町	23,440	-0.2	18,19	17,26	18	26	2.6	0.1	16,17, 21-29	15,18-25, 27-29	28	20	-11.4	-8.3
斑鳩町	27,734	-4.3	17	15	17	15	0.7	0.7	15,16, 18-29	16-29	23	27	-14.8	-10.4
安堵町	7,929	-2.6	22,28,29	23	29	23	9.5	2.0	17-21, 23-27	15-17,19-22, 25,27-29	27	20	-16.7	-10.4
川西町	8,653	-3.2	15-18	17,21, 26,29	16	17	5.1	8.3	17,21, 26,29	15,20,22- 25,27,28	24	22	-14.8	-12.0
三宅町	7,440	-2.0	18-20,29	19,28	18	28	10.0	10.7	17,21-25, 27,28	15,17,18, 20-27,29	22	25	-10.0	-16.1
田原本町	32,121	-3.4	—	16,29	—	16	—	1.2	15,16, 18-29	17-28	24	19	-17.3	-11.0
曾爾村	1,895	-2.1	18,25,29	16,20,21,2 3-26	25	16	33.3	25.0	20-23, 26,28	18,19,22	26	29	-28.6	-20.0
御杖村	2,102	-2.2	18,19	15,28	19	28	42.9	20.0	20,23-25, 29	16,20-24, 26,27,29	23	27	-66.7	-66.7
高取町	7,657	-0.7	15,16,26	15	16	15	7.0	3.0	17,19-25	17-21	29	26	-26.2	-26.5
明日香村	5,856	-5.4	18	—	18	—	11.8	—	15,17, 19-29	16-29	26	23	-31.6	-16.2
上牧町	23,728	-3.5	15	15,29	15	15	1.4	2.6	16-29	17-23, 25-28	22	25	-18.8	-10.8
王寺町	22,182	-3.1	16	15,18,19,2 0,26	16	19	1.0	12.3	15,18-29	16,17,21- 25,27-29	24	25	-16.0	-11.0
広陵町	33,070	10.4	19-29	—	25	—	60.7	—	15-18	15-29	18	27	-20.5	-13.1
河合町	18,531	-4.4	15-18	—	16	—	27.3	—	19-29	15,16, 18-29	23	25	-22.5	-16.7

1)全町村について各歳別集計が公表されている。2)全町村とも外国人を合算。

表2-7 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：奈良県中南部 2010年

	外国人を 含む 総数 (人)		「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回り率 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
吉野町	8,642	-6.3	16	15	16	15	15.17-29	16-29	2.9	3.2	21	22	-36.5	-30.2
大淀町	19,176	-4.8	15	—	15	—	15	16,18-29	4.3	—	22	21	-22.2	-16.7
下市町	7,020	0.0	17,29	15.17,19.2	29	29	1,28-29	16,18,20, 22,23	10.0	10.7	23	23	-25.0	-12.9
黒滝村	840	-10.1	25	—	25	—	—	16-21,26, 27,29	33.3	—	26	20	-66.7	-75.0
天川村	1,572	-11.8	25	25	25	25	15,16, 19-24,26	16-20, 22-24,27	16.7	33.3	16	16	-88.9	-87.5
野迫川村	524	-1.9	16,27	28	16,27	28	17,20,21, 24,26	21,23,27	100.0	50.0	17,20,21	21	-50.0	-50.0
十津川村	4,107	6.2	15-18,20	—	17	—	19-24, 27-29	15-29	136.4	—	19	21	-86.7	-81.3
下北山村	1,039	-10.6	—	—	—	—	17,20,22,23, 26,27,29	15,16,20,23, 26,27,29	—	—	20	16	-85.7	-83.3
上北山村	683	4.9	21,28	19,27	21	19	15,18, 20,24	16-18,20-25	100.0	50.0	15,18,20	20	-50.0	-57.1
川上村	1,643	-9.2	16,17	28	16	28	19,21,22, 27-29	19-27,29	50.0	66.7	29	23	-75.0	-83.3
東吉野村	2,143	-12.2	15	—	15	—	16,17,19-23, 25-29	15,17, 19-29	14.3	—	22,23	25	-62.5	-53.8

1)全町村について各歳別集計が公表されている。2)全町村とも外国人を合算。

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)  
る上回りは高校生の年齢に相当する15歳～18歳および20代後半の年齢層に発生している場合が少数みられる。

他方、国勢調査人口の登録人口に対する下回りは大半の町村男女の幅広い年齢層において大幅なものがみられる。このうち最大下回り率が20%以上の非常に大きな差は、北部では16町村のうち6町村の男性と4町村の女性に限られているが、中南部では全11町村の男性と9町村の女性の幅広い年齢層に発生している。

表2-8は、中国地方所在中小都市のうち24市1町について両データの関係を示したものである。比較のために岡山市・広島市のデータも合わせて示した。「年齢計人口」についての両データの間接関係をみると、島根県浜田市の男性・広島県東広島市の男女・山口市の女性・岡山市の男女・鳥取市の男性において国勢調査人口が登録人口を上回っているほかは国勢調査人口が下回っている。

若年層に限定しての両データを比較すると、東広島市の男女において非常に大きな差がみられる。他の都市では上回っている年齢層がないか小幅な上回りとなっている。

他方、各市男女の幅広い年齢層において国勢調査人口の登録人口に対してかなり大きく下回っている。島根県益田市の男女・山口県萩市の男女では40%を超える差となっている。

表2-9は、和歌山県・四国地方所在の14市1町について両データの状況を示したものである。「年齢計人口」についての両データの間接関係をみると、徳島市の男女・高知市の女性において国勢調査人口が登録人口をわずかに上回っているほかは国勢調査人口が下回っている。

若年層に限定しての両データを比較すると、国勢調査人口は登録人口に対して香川県善通寺市の男女・徳島市の女性において大きく上回っている。両市以外では、国勢調査人口は登録人口に対してまったく上回っていないか、高校生に相当する年齢層において10%未満の上回りがみられる。

他方、善通寺市・徳島市を除く各市の男女の幅広い年齢層において国勢調

表2-8 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：中国地方所在都市（その1）2010年

外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15～29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 上回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果の 下回りが 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
都市														
鳥取市	197,449	0.0	-1.2	—	—	—	—	—	15-29	15-29	25-29	20-24	-3.6	-12.8
米子市	148,271	-2.4	-1.7	16.17	—	16	16	0.9	15.18-29	15-29	20	19	-28.7	-29.8
倉吉市	50,720	-1.9	-0.5	15.16	15.16	16	16	8.2	17-29	18-24	20	21	-34.4	-33.1
松江市	194,258	-0.8	-1.9	15-18	16	16	16	9.7	19-29	15, 18-29	23	21	-9.9	-12.6
浜田市	61,713	6.8	-2.5	25-29	—	25-29	—	15.6	15-24	15-29	20-24	20-24	-2.1	-24.5
益田市	50,015	-2.5	-1.8	15-17	15-17	16	16	20.4	18-29	18-29	19	19	-58.3	-50.7
安芸市	41,836	-2.5	-2.1	—	—	—	—	—	15-29	15-29	20-24	20-24	-23.2	-20.9
岡山市	709,584	0.6	0.3	15-23	18-26	19	19	11.9	24-29	27-29	26	27	-3.1	-1.2
倉敷市	475,513	-1.8	-2.0	—	18-21	—	19	—	15-29	15-17, 22-29	20	27	-14.0	-7.0
笠岡市	54,225	-1.9	-0.1	—	—	—	—	—	15-19	15-19	20-24	20-24	-20.1	-15.6
備前市	37,839	-4.1	-2.8	—	—	—	—	—	15-29	15.17-29	20	20	-32.0	-25.5

表2-8 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：中国地方所在都市(その2) 2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)		「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回っている 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
都市															
広島市	1,173,843	-2.3	-1.1	16-18	18,19	18	19	15,19-29	15-17, 20-29	0.8	2.5	22	22	-11.9	-6.4
呉市	239,973	-2.6	-2.4	16,17	17	16	17	16,18-29	16,17, 19-29	1.5	0.1	22	23	-16.7	-11.2
三原市	100,509	-2.4	-1.6	16,17	15	16	15	15,18-29	16,18-29	2.8	0.7	19	19	-34.7	-23.5
尾道市	145,202	-3.4	-2.9	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20-24	20-24	-22.9	-16.4
福山市	461,357	-4.8	-3.7	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20	20	-26.4	-26.9
庄原市	40,244	-1.6	-2.4	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20-24	20-24	-14.3	-16.6
東広島市	190,135	1.4	0.2	15-29	15-29	20	21	—	—	85.4	38.4	—	—	—	—
廿日市市 <sup>3)</sup>	114,038	-4.8	-2.9	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20-24	20-24	—	-17.8
府中町	50,442	-2.2	-1.2	17	16,25	17	25	16,18-29	15,17-24, 26-29	0.7	1.1	24	22	-19.1	-15.0
下関市	280,947	-2.1	-1.3	—	15	—	15	15-29	16-29	—	0.1	23	20	-12.3	-14.3
宇部市	173,772	-0.2	-0.7	15-17, 20-24	16,17	20	16	25-29	18,19, 15,18-23, 25-29	14.8	1.6	26	19	-6.3	-19.4
山口市	196,628	-0.4	0.3	15-19	15-24	15-19	20-24	15-29	25-29	7.4	8.8	25-29	25-29	-1.0	-0.6
萩市	53,747	-3.6	-2.7	—	15	—	15	15-29	16-29	—	1.3	20	20	-55.1	-47.9
防府市	116,611	-2.5	-1.5	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20-24	20-24	-15.8	-12.3
岩国市	143,857	-3.5	-1.7	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20	19	-37.2	-26.3
光市	53,004	-2.4	-2.0	—	—	—	—	15-29	15-29	—	—	20-29	15-19	-18.4	-15.2

1)鳥取市・浜田市・安芸市・尾道市・庄原市・廿日市市・山口市・防府市は5歳階級と10歳階級と15歳階級の併用集計を公表。  
2)倉吉市・浜田市・庄原市・府中町・下関市・宇部市・光市は外国人を除外。他は外国人を合算。他は外国人を合算。他は外国人を合算。他は外国人を合算。  
3)廿日市市は男女別集計を公表。



表2-9 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較:和歌山県・四国地方所在都市 2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 上回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
田市	79,119	-4.2	-3.4	-	-	-	-	15-29	15-29	20-24	20-24	-49.6	-37.4
徳島市	264,548	0.7	0.7	17-24	18-24	21	19	15-16, 25-29	15-17, 25-29	28	15	-4.4	-2.2
三好市	29,951	-7.0	-5.6	-	16	-	16	15-29	15,17-29	20	19	-57.0	-59.7
高松市	419,429	-1.3	-2.5	-	-	-	-	15-29	15-29	20	20	-24.7	-25.7
坂出市	55,621	-3.9	-3.0	-	17	-	17	15-29	15,16, 18-29	20	20	-35.3	-37.3
善通寺市	33,817	-0.2	-0.1	15-20	15-21, 25-29	17	18	21-29	22-24, 26-28	28	23	-9.0	-12.2
さぬき市	53,000	-2.6	-1.7	15-18	-	16	-	19-29	15,17-29	21	21	-21.6	-17.2
今治市	166,532	-4.4	-3.2	17	15	17	15	16,18-29	16-29	20	20	-47.8	-46.3
宇和島市	84,210	-4.0	-2.3	-	-	-	-	15-29	15-29	19	21	-62.2	-43.2
新居浜市	121,735	-4.0	-3.8	15-17	-	16	-	18-29	15-29	19	19	-41.4	-50.5
西条市 <sup>3)</sup>	112,091	-3.2	-	-	-	-	-	15-29	15-29	25-29	25-29	-28.0	-
松前町	30,359	-4.6	-2.8	15	15-17	15	17	16-29	18-29	21	19	-26.1	-23.6
高知市	343,393	-0.8	0.1	15-18	15-19	17	17	19-29	20-29	22	23	-14.8	-7.1
南国市	49,472	-1.2	-0.3	15-17, 23,25	16,17,26	17	17	16-22, 24,26-29	15,18- 25,27-29	19	22	-11.0	-12.0
四万十市	35,933	-1.8	-1.5	15,17	15,17	16	16	16,18-29	16,18-29	19	19	-52.4	-65.0

1)田田市・西条市は5歳階級別、他は各歳別集計。2)高松市は外国人を合算。他は外国人を除外。3)西条市は男女別集計非公表。

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)  
査人口は登録人口に対してかなり大きく下回っている。両データの差は、高知市四万十市の男女・愛媛県宇和島市の男性・徳島県三好市の男女・愛媛県新居浜市の女性・和歌山県田辺市の男性において非常に大きい。他の都市でも20歳前後の年齢層において10%台から30%台の下回りがみられる。

表2-10は、九州北部地方所在の18市・6町について両データの状況を示したものである。比較のために北九州市・福岡市のデータも合わせて示した。「年齢計人口」についての両データの関係をみると、福岡市の男女・佐賀県鳥栖市の男女において国勢調査人口が登録人口を上回っているほかは国勢調査人口が下回っている。

若年層に限定しての両データを比較すると、福岡市の男女・福岡県宗像市の女性・福岡県中間市の男性でも大きな差がみられる。

他方、福岡市を除く各市の男女の幅広い年齢層において国勢調査人口は登録人口に対してかなり大きく下回っている。そのうち長崎県島原市の男女・同西海市の女性・佐賀県伊万里市の男性において非常に大きな差がみられる。

表2-11は、九州中南部地方・沖縄県所在中小都市のうち21市2町について両データの状況を示したものである。「年齢計人口」における両データの関係をみると、熊本市の男女・大分県別府市の女性・鹿児島市の女性において国勢調査人口が登録人口を上回っているほかは国勢調査人口が下回っている。

若年層に限定しての両データを比較すると、熊本市の男性において非常に大きな差がみられ、大分県別府市の女性・鹿児島市の女性・熊本市の女性・鹿児島市の男性にもかなり大きな差がみられる。

他方、鹿児島市・熊本市を除く各市の男女の幅広い年齢層において国勢調査人口は登録人口に対してかなり大きく下回っており、差は20歳前後がピークである。両データの差は、熊本県人吉市の19歳男女・鹿児島県伊佐市の19歳男女・大分県日出町の19歳男性では40%を超えている。

表2-10 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：九州北部所在都市（その1）2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回り率の 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢層の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢層の 下回り率(%)	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
北九州市	976,846	-2.8	-1.4	18,19	18,19	18	19	3.2	2.4	15-17, 20-29	15-17, 20-29	25	21	-6.8	-5.4
福岡市	1,463,743	2.0	3.0	15-24	15-23	19	19	55.2	43.3	25-29	24-29	29	26	-3.8	-2.8
大牟田市	123,638	-3.5	-2.1	15-17	15-17	16	16	1.8	2.5	18-29	18-29	21	20	-21.2	-18.2
久留米市	302,402	-3.0	-2.7	15,16, 18-20	19	19	19	7.9	2.5	17, 21-29	15-18, 20-29	23	23	-13.1	-9.4
直方市	57,686	-3.4	-1.4	16,17	17	17	17	2.8	5.6	15,18-29	15,16, 18-29	20	19	-21.8	-15.9
大川市	37,448	-3.0	-0.9	—	—	—	—	—	—	15-29	20-29	25-29	25-29	-9.1	-4.7
中間市	44,210	-3.9	-2.3	15-17	15-17	16	17	16.1	3.4	18-29	18-29	20	20	-28.2	-19.8
春日市	106,780	-3.6	-1.5	—	15-19	—	15-19	—	3.0	15-29	20-29	25-29	25-29	-11.9	-9.0
大野城市	95,087	-2.1	-0.3	23	16	23	16	0.5	1.4	15-22, 24-29	15, 17-29	20	21	-9.9	-13.3
宗像市	95,501	-1.6	0.6	15-20	15,17-22	19	20	8.4	22.2	21-29	16,23-29	23	24	-10.7	-8.0
糸島市	98,435	-3.6	-1.8	18,19	—	19	—	3.8	—	15-17, 20-29	15-29	29	21	-12.9	-14.2
那珂川町	49,780	-1.1	0.2	15,24	15,18,29	24	15	2.4	2.0	16-23, 25-29	16,17, 19-29	18	21	-8.3	-8.3
篠栗町	31,318	-2.8	0.1	—	—	—	—	—	—	15-29	15,16, 18-27	19	20	-20.4	-10.7
水巻町	30,021	-1.9	-0.3	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	21	21	-23.0	-13.7
筑前町	29,155	-1.8	0.4	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	23	20	-19.3	-13.3

表2-10 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：九州北部所在都市（その2）2010年

外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
都市														
佐賀市	237,506	-0.8	-0.5	15,16, 23,24	15-21	16	18	0.8	3.8	17-22, 25-29	20	27	-5.4	-5.1
鳥栖市	69,074	-2.0	0.9	15-19	15-19, 25-29	15-19	15-19	0.2	2.8	20-29	20-24	20-24	-3.2	-1.0
伊万里市	57,161	-2.6	-1.6	15-17	15,16	16	16	7.0	1.9	18-29	17-29	19	-36.8	-44.7
武雄市	50,699	-2.2	-1.5	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	20-24	-22.1	-14.8
基山町	17,837	-2.6	0.9	15,16	15,17,18	16	18	10.2	9.1	18-29	19-29	20	-26.7	-13.5
佐世保市	261,101	-2.7	-2.6	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	21	-15.2	-18.9
島原市	47,455	-3.7	-2.9	15-17	16,29	16	16	2.3	3.0	18-29	15,17-28	20	-53.1	-66.8
諫早市	140,752	-2.2	-1.7	15-17	15-17	16	16	6.7	2.0	18-29	18-29	19	-31.3	-23.1
大村市	90,517	-2.7	-1.2	15-17	15-17	16	17	6.5	7.1	18-29	18-29	19	-28.8	-19.8
西海市	31,176	-2.4	-3.3	—	—	—	—	—	—	15-29	15-29	20	-27.2	-43.9
長与町	42,535	-2.0	0.5	—	—	—	—	—	—	15,16,19,2 0,22,23	20	26	-23.3	-7.4

1)大川市・春日市・鳥栖市・武雄市は5歳階級別、他は各歳別集計を公表。2)春日市・那珂川町・水巻町・志免町・大村市は外国人を合算、他は外国人を除外。

表2-11 国勢調査人口と登録人口<sup>1) 2)</sup>の比較：九州地方中南部所在都市（その1）2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 に占める 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15～29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 上回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 上回り率(%)		国勢調査結果が 下回っている 15～29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
熊本市	734,474	-1.1	-0.1	15-22	15-22	19	21	23-29	23-29	23-29	23-29	28	29	-5.8	-3.2
八代市	132,266	-2.9	-2.3	15-17	16,17	17	16	18-29	15,18-29	18-29	15,18-29	20	19	-22.8	-23.6
人吉市	35,611	-1.4	-0.9	-	29	-	29	15-29	15-23,25-28	15-29	15-23,25-28	19	19	-51.7	-53.5
荒尾市	55,321	-2.7	-1.5	15-17	17	16	17	18-29	15,16,18-29	18-29	15,16,18-29	21	20	20.7	-18.4
大分市	474,094	-0.3	0.0	15-18	15-17	17	17	19-29	18-29	19-29	18-29	22	22	-7.0	-7.9
別府市	125,365	-0.3	1.2	15-24	15-24	20-24	20-24	25-29	25-29	25-29	25-29	25-29	25-29	-6.0	-2.1
中津市	84,312	-1.2	-2.1	15-17, 27,28	15,17,29	27	29	25-29	25-29	25-29	25-29	20	19	-31.8	-39.3
日出町	28,221	-3.0	-1.4	26,28,29	17,29	26	17	15-25,27	15,16,18-28	15-25,27	15,16,18-28	19	20	-42.3	-28.7
宮崎市	400,583	-2.1	-0.9	15-17	15-17	17	16	18-29	18-29	18-29	18-29	19	19	-14.8	-8.9
延岡市	131,182	-2.8	-1.5	16	16,17	16	16	15,17-29	15,18-29	15,17-29	15,18-29	19	19	-25.2	-29.6

表2-11 国勢調査人口と登録人口<sup>1)2)</sup>の比較：九州地方中南部所在都市（その2）2010年

都市	外国人を含む 総数 (人)	「年齢計人口」 における 国勢調査人口の 上回り率(%)		国勢調査結果が 上回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果が 上回っている 最大の 年齢(歳)		国勢調査結果の 上回り率が 最大の 年齢(歳)		国勢調査結果が 下回っている 15~29歳の 年齢層(歳)		国勢調査結果の 下回り率が 最大の 年齢(歳)		同・ 左記の 年齢の 下回り率(%)		
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
都府市	605,846	-1.7	-0.8	16,18-21	18-21	19	19	15,17,22-29	22-29	27	27	15-17, 22-29	27	27	-7.2	-3.3
鹿児島市	105,070	-1.5	-1.1	15,16	15,25	16	15	17-29	16-24,26-29	19	19	16-24,26-29	19	19	-16.7	-27.0
出水市	55,621	-2.5	-0.8	15-17	15-17	16	16	18-29	18-29	19	20	18-29	19	20	-35.7	-24.6
薩摩川内市	99,589	-2.2	-1.3	—	29	—	29	15-29	15-29	19	19	15-29	19	19	-23.3	-10.3
日置市	50,822	-2.7	-1.1	—	—	—	—	15-29	15-29	20-24	20-24	15-29	20-24	20-24	-14.5	-11.6
霧島市	127,487	-1.8	-1.0	—	—	—	—	15-29	15-29	25-29	20-24	15-29	25-29	20-24	-5.1	-6.0
伊佐市	29,304	-3.4	-2.3	16,17,28	—	16	16	15-29	15,18-27,29	19	19	15,18-27,29	19	19	-44.0	-52.4
浦添市	110,351	-2.1	-1.4	16	15-17	16	17	15,17-29	18-29	20	19	15,17-29	20	19	-12.3	-15.5
糸満市	57,320	-3.1	-2.4	15,16	—	16	—	18-29	15-29	20	19	18-29	20	19	-19.0	-14.3
沖縄市	130,249	-4.1	-4.6	—	—	—	—	15-29	15-29	22	23	15-29	22	23	-12.6	-12.2
豊見城市	57,261	-1.0	—	—	—	—	—	15-29	—	20-24	20-24	15-29	20-24	20-24	—	-0.4
うるま市	116,979	-2.2	-1.3	17,21,25	15,22,25	17	25	15,16,18-20, 22-24,26-29	16-21,24,26-29	19	20	15,16,18-20, 22-24,26-29	19	20	-12.4	-13.6
西原町	34,766	-1.6	-0.6	15,16, 19-22	16,17, 19,20	19	16	17,18,24-29	15-18,21, 23-26,28,29	27	29	15-18,21, 23-26,28,29	27	29	-5.3	-4.7

1)別府市・豊見城市は6歳階級別、他は各歳別集計を公表。2)大分市・中津市は外国人を合算。他は外国人を除外。3)豊見城市は男女別集計非公表。

## 注

- 1) 以下では、各市町村の個別年齢において国勢調査人口の登録人口に対する上回り率が20%以上の場合および同じく下回り率が40%以上の場合だけに触れた。
- 2) 山田(2012b)表2-3参照。

## 3 むすびにかえて

最後に本稿の考察を要約しよう。

まず三大都市圏外に所在する中小都市(町村を含む)の「年齢計総数」について国勢調査人口と入手できた登録人口を比較すると、大きな差が生じている場合は少ない。このうち国勢調査人口が上回っている市町村は男女とも全体の約10分の1を占めるにすぎず、残りの市町村では国勢調査人口が下回っている(表3-1)。これは、国勢調査人口が登録人口を上回っている場合が多かった三大都市圏内に所在する中小都市とは対照的な傾向である。

つぎに、若年層に限定して各歳別または5歳階級別に細分した比較結果を概観する。特定の年齢の国勢調査人口と登録人口の差が大きい市町村は、三大都市圏外の地域において広範囲にみられる。表3-2・表3-3は、各市町村における年齢別にみた最大下回り率および最大上回り率とその年齢(層)を示したものである。

200余りの市町村のうち約3分の2では国勢調査人口が上回っている年齢(層)がないか最大上回り率が5%未満であり、最大上回り率が10%以上の市町村は男性では42、女性では25にすぎない。国勢調査人口の上回りの発生は学生数が多い大学が所在する少数の市町村<sup>1)</sup>において顕著であった。これは、これらの市町村に立地する大学・短大には県外など遠隔地出身者が多数入学しており(表1-4)、その学生たちのうち住民登録を移していないものの大学周辺の地域に居住するものが国勢調査によって把握された場合が多いことを反映しているためではないかと考えられる。このような国勢調査人口の登録人口に対する上回りは、人口規模が比較的大きい都市でも学生

表3-1-1 国勢調査人口と登録人口の全年齢・性別比較<sup>1)</sup>

地域ブロック	市町村 総数	性	国勢調査人口が多い市町村					国勢調査人口が少ない市町村 (該当市町村数)				
			5%以上	2%~ 5%未満	1%~ 2%未満	1%未満	1%未満	1%~ 2%未満	2%~ 5%未満	5%以上		
北海道	19	男性	0	0	2	2	4	5	6	0		
		女性	0	0	2	2	9	4	2	0		
東北東部 <sup>2)</sup>	12	男性	0	0	1	0	3	4	3	1		
		女性	0	0	0	2	3	4	2	1		
東北西部	14	男性	0	0	0	1	0	7	3	3		
		女性	0	0	0	3	1	6	1	0		
北関東	20	男性	0	0	0	3	1	4	12	0		
		女性	0	0	0	0	5	10	5	0		
北陸	20	男性	1	1	0	1	2	1	12	2		
		女性	0	1	1	0	3	7	7	1		
甲信 ・ 静岡 県	15	男性	0	0	0	1	0	1	12	1		
		女性	0	0	0	0	1	7	6	1		
奈良県郡部 <sup>3)</sup>	27	男性	2	1	0	1	2	1	13	7		
		女性	0	1	0	3	2	4	9	8		
中国	25	男性	1	0	1	1	3	4	15	0		
		女性	0	0	0	2	3	10	10	0		
和歌山 ・ 四国	14	男性	0	0	0	1	2	3	7	1		
		女性	0	0	0	2	2	2	7	1		
九州北部	24	男性	0	0	0	0	1	4	19	0		
		女性	0	0	0	7	4	7	6	0		
九州中南部 ・ 沖縄	22	男性	0	0	0	0	2	7	13	0		
		女性	0	0	1	0	7	9	5	0		
(合計)	212	男性	4	2	4	11	20	41	115	15		
女性			2	2	4	21	40	70	60	12		

1)町村を含み、政令指定都市9市および年齢計総数の性別集計が入手できなかった群馬県桐生市(年齢計総数における国勢調査結果の下の率は2.7%)・長野県千曲市(同1.9%)・愛媛県西条市(同0.2%)・沖縄県豊見城市(同1.0%)を除く。

2)奥州市・古殿町を含む。奥州市・古殿町以外の個別都市の状況は、山田(2011c)参照。

3)奈良県下市町では、男性についての両統計の結果が同数となっているが、国勢調査結果が登録人口より1%未満多い市町村に含めた。



表3-2 国勢調査人口と登録人口の若年層についての性別年齢別・比較<sup>1)</sup>  
(該当市町村数)

地域ブロック	市町村 総数	性	国勢調査人口の最大上回り率				国勢調査人口の最大下回り率						
			上回っている 年齢層なし	0%～ 5%未満	5%～ 10%未満	10%～ 20%未満	20%～	下回っている 年齢層なし	0%～ 5%未満	5%～ 10%未満	10%～ 20%未満	20%～ 40%未満	40%～
北海道	19	男性	2	6	3	5	3	0	2	7	3	5	2
		女性	5	8	3	1	2	0	2	6	6	4	1
東北東部 <sup>2)</sup>	12	男性	3	5	3	1	0	0	1	1	3	6	1
		女性	4	7	1	0	0	0	1	2	3	4	2
東北西部	14	男性	3	5	2	1	3	0	1	3	2	5	3
		女性	2	8	1	0	3	0	1	2	2	4	5
北関東	20	男性	6	11	1	1	1	0	0	4	10	6	0
		女性	7	11	2	0	0	0	0	7	7	6	0
北陸	20	男性	9	8	1	0	2	0	2	0	4	11	3
		女性	11	7	0	1	1	1	1	0	4	9	5
甲信・静岡	15	男性	8	4	2	0	1	0	1	1	1	9	3
		女性	10	4	0	1	0	0	1	1	1	11	1
奈良県郡部	27	男性	3	6	4	5	9	0	0	0	9	8	10
		女性	9	8	1	3	6	0	0	1	13	3	10
中国	23	男性	12	4	3	2	2	1	3	2	6	9	2
		女性	11	8	2	1	1	1	1	2	10	7	2
和歌山・四国	14	男性	5	5	3	0	1	0	1	1	2	4	6
		女性	5	5	2	2	0	0	1	1	3	4	5
九州北部	24	男性	9	8	5	2	0	0	1	4	6	12	1
		女性	8	12	3	0	1	1	0	2	6	12	1
九州中南部	22	男性	6	9	4	3	0	0	0	0	6	7	6
		女性	4	13	3	1	1	0	4	3	7	6	2
・ 沖縄	210	男性	66	71	31	20	22	1	12	29	53	81	34
		女性	76	91	18	10	15	2	14	31	68	59	36

1) 政令指定都市9市・山口県光市および登録人口の性別年齢別集計が入りできなかった広島県廿日市(国勢調査結果の最大上回り率:-17.8%)を除く。

2) 奥州市・古賀町以外の個別都市の状況は、山田(2011c)参照。

表3-3 国勢調査人口と登録人口の若年層における相違が最大の年齢<sup>1)</sup>

地域 ブロック	市町村 総数	性	国勢調査人口の上回りが最大の年齢 <sup>2)</sup>					国勢調査人口の下回りが最大の年齢					(該当市町村数)				
			上回っている 年齢層なし		15~18歳 <sup>2)</sup>	19歳	20歳	21~24歳 <sup>3)</sup>	25~29歳	下回っている 年齢層なし		15~18歳 <sup>2)</sup>		19歳	20歳	21~24歳 <sup>3)</sup>	25~29歳
			2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	15
北海道	19	男性	2	10	4	1	1	1	0	0	5	3	5	6			
		女性	5	10	2	0	1	1	0	0	8	0	7	4			
東北東部 <sup>3)</sup>	12	男性	3	6	1	0	2	0	0	0	3	2	5	2			
		女性	4	8	0	0	0	0	0	0	5	1	5	1			
東北西部	14	男性	3	4	0	2	3	2	0	2	5	4	2	1			
		女性	2	7	1	0	2	2	0	0	7	1	5	1			
北関東	20	男性	6	10	2	0	0	2	0	0	3	9	8	0			
		女性	7	9	0	1	2	1	0	0	7	2	10	1			
北陸	20	男性	9	7	0	0	2	2	0	0	4	1	13	2			
		女性	11	6	0	1	1	1	1	1	8	2	8	0			
甲信・静岡	15	男性	8	7	0	0	0	0	0	0	6	4	3	2			
		女性	10	4	1	0	0	0	0	0	8	2	5	0			
奈良県都部	27	男性	3	15.5	1	0	1	6.5	0	3	1	2	14	7			
		女性	9	8	2	0	1	7	0	2	2	4	9	10			
中国	23	男性	12	8	0	2	0	1	1	1	2	7	9	3			
		女性	11	8	1	0	2	1	1	0	5	4	11	2			
和歌山・四国	14	男性	5	8	0	0	1	0	0	0	4	4	4	2			
		女性	5	8	1	0	0	0	0	1	4	3	6	0			
九州北部	24	男性	9	10	3	0	2	0	0	1	4	8	8	3			
		女性	8	13	1	1	1	0	0	0	5	5	10	4			
九州中南部	22	男性	6	10	3	0	1	2	0	0	9	4	4	5			
		女性	4	11	1	0	2	4	0	0	10	4	4	4			
沖縄	210	男性	66	95.5	14	5	11	18.5	1	7	46	48	75	33			
		女性	76	92	10	3	12	17	2	4	69	28	80	27			

1) 政令指定都市9市および登録人口の性別年齢別集計が入りできなかった広島県廿日市市(国勢調査結果の最大上回り率: -17.8%)・光市(5歳階級・10歳階級を併用)を除く。  
 2) 差が同率の場合1は0.8とカウントした。3) 115~19歳の差が最大の年齢層を含む。4) 120~24歳の差が最大の年齢層を含む。

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)  
数が多い大学が立地していない場合には発生していない。若年単独世帯は国勢調査の実地調査において把握漏れとなる可能性が一般に高いにもかかわらず、これらの地域では国勢調査人口の登録人口に対する上回り率は大学入学時に相当する19歳前後において最大となっている場合が多い。19歳前後の単独世帯比率も付近の都市よりも大学所在都市において高い。また、大学所在都市において女性の国勢調査人口の上回り率が男性よりも全般に低いのは、親元からの通学率が男性より高いためであろう。

他方、男女とも約5分の4の市町村では国勢調査人口の最大下回り率は10%以上であった。国勢調査人口が下回っている年齢層がない市町村および最大下回り率が5%未満の市町村は全体の1割弱しかなかった。人口規模が小さい都市による登録人口データの公表が増えているため、国勢調査人口の最大下回り率は大きくなっている。国勢調査人口が下回っている場合、国勢調査人口の下回り率が最大の年齢は2005年と同じく19歳前後が多い。

また、男性における国勢調査人口の下回り率が女性よりも大きいことは、国勢調査人口の上回り率が高い地域と同様の高校卒業後の進学・就職などの事情が作用したためではないかと考えられる。ブロック別にみると、四国、北陸、甲信・静岡に国勢調査人口の下回り率が大きい都市が多く、北関東では少ない。

各地域とも両データの差は20代後半に向うにつれて縮小している。すでに指摘したように、年齢が高くなれば勤務先などから住民票の写しの提出を求められる機会が増えるので、転居届を提出して実際の居住地へ住民登録を移す場合が多くなるためではないかと考えられる。年齢が上昇するとともに相違が縮小する傾向は、2005年国勢調査時点でもみられた。

さらに、地域特性が類似している隣接地域でも両データの間の相違の程度は大きいので、狭い地域において大きな相違が存在していても、包含する地域を対象とするデータでは相違が読み取りにくくなっている可能性があるといえる。

なお、本稿では15歳未満の年齢層・30歳以上の中年層についての両デー

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)の対比には触れられなかった。また、国勢調査人口と登録人口の差は、最高年齢層において若年層と同様に特に大きいと考えられる<sup>2)</sup>。これらのデータの対比と分析は、稿を改めて次の機会に取り上げたい。

## 注

- 1) 人口規模が比較的小さい市町村に学生数が多い大学が立地している例としては、香川県善通寺市(2010年国勢調査による総人口33817人)、石川県野々市町(同51885人)、茨城県龍ヶ崎市(同80334人)、北海道江別市(同123722人)、広島県東広島市(同190135人)などがある。
- 2) 大学生に相当する年齢層以外において国勢調査人口が登録人口を大幅に上回っている市町村については、所属世帯人員が多い病院・社会施設・矯正施設など施設世帯の所在が国勢調査結果へ作用しているのではないかと考えられる。例えば、2010年国勢調査による総人口が37243人の青森県つがる市には世帯人員の総数が1111人の施設世帯が所在していた。また、2010年国勢調査による総人口が24972人の鳥根県浜田市には世帯人員の総数が3628人の施設世帯が所在していた。

## 参考文献

以下のうちインターネット収録の文書は2011年5月～2013年1月にダウンロードまたは収録を確認した。なお、2013年1月現在すでに削除されている場合がある。個別自治体の年齢別登録人口データを収録しているインターネット・ページのアドレスは、筆者の個人サイト(<http://home.t06.itscom.net/ecyamada/brrpref.htm>)からリンクを張っているので、URLを省略した。

文部科学省(2011)『学校基本調査報告書高等教育機関編』政府統計の総合窓口サイト(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/>)

山田 茂(2010)「大都市地域における性別年齢別静態人口データの相違に関する考察」国土館大学政経学会『政経論叢』151

山田 茂(2011a)「大都市圏外所在中小都市若年層における性別年齢別静態人口データの相違に関する考察」国土館大学政経学会『政経論叢』155

山田 茂(2011b)「三大都市圏外所在中小都市若年層の性別年齢別静態人口データの相違に関する考察」国土館大学政経学会『政経論叢』特別記念号

山田 茂(2011c)「抽出速報集計からみた2010年国勢調査結果の精度について」国土館大学政経学会『政経論叢』158

- 三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)
- 総務省統計局 (2011a)「住民基本台帳人口移動報告」総務省統計局サイト (<http://www.stat.go.jp/data/idou/>)
- 総務省統計局 (2011b)「平成22年国勢調査」政府統計の総合窓口サイト (<http://www.e-stat.go.jp/>)
- 総務省統計局 (2011c)「平成22年国勢調査の実施状況平成27年国勢調査の企画に関する検討会(第2回)配布資料」総務省統計局サイト (<http://www.stat.go.jp/info/kenkyu/kokusei/kentou27/pdf/02sy02.pdf>)
- 山田 茂 (2012a)「2010年国勢調査が把握した大都市地域の性別年齢別人口の精度に関する考察」国土館大学政経学会『政経論叢』160
- 山田 茂 (2012b)「2010年10月時点の三大都市圏所在中小都市の若年層静態人口の精度について」国土館大学政経学会『政経論叢』161
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2013)「人口移動調査」([http://www.ipss.go.jp/site-ad/index\\_Japanese/ps-idou-index.asp](http://www.ipss.go.jp/site-ad/index_Japanese/ps-idou-index.asp))

**\* 個別市町村の年齢別人口データの出所**

- 東北地方東部所在都市(岩手県奥州市・福島県古殿町を除く)・政令指定都市のデータの出所は、山田(2011c)山田(2012a)と共通であるので、下記では省略した。
- 北海道函館市(2010)「住民基本台帳人口」函館市サイト
- 北海道小樽市(2010)「住民基本台帳人口」小樽市サイト
- 北海道旭川市(2010)「年齢別人口及び人口分析」旭川市サイト
- 北海道室蘭市(2010)「室蘭市住民基本台帳人口統計資料」室蘭市サイト
- 北海道釧路市(2010)「住民基本台帳人口, 外国人登録者数」釧路市サイト
- 北海道帯広市(2010)「帯広市男女別年齢別人口構成」帯広市サイト
- 北海道北見市(2010)「北見市最新人口統計」北見市サイト
- 北海道留萌市(2011)「留萌市統計書 平成22年度版」留萌市サイト
- 北海道苫小牧市(2010)「平成22年9月30日現在の人口(年齢別)について」苫小牧市サイト
- 北海道稚内市(2011)『稚内市統計書(平成22年版)』稚内市サイト
- 北海道美唄市(2010)「住民基本台帳人口」美唄市サイト
- 北海道江別市(2011)『2011年度 江別市統計書』江別市サイト
- 北海道千歳市(2010)「男女別年齢階層別人口」千歳市サイト
- 北海道滝川市(2010)「滝川市 年齢別・町別・年度別人口」滝川市サイト
- 北海道深川市(2010)「人口統計」深川市サイト
- 北海道登別市(2010)「登別市の人口及び世帯数」登別市サイト
- 北海道恵庭市(2010)「恵庭市の人口年齢別人口」恵庭市サイト
- 北海道伊達市(2010)「伊達市の人口統計」伊達市サイト

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

- 北海道北広島市(2010)「年齢, 男女別人口」(北広島市市役所から提供)
- 北海道石狩市(2010)「各種統計」石狩市サイト
- 青森県青森市(2010)「人口・世帯数等(住民基本台帳)」青森市サイト
- 青森県弘前市(2010)「人口資料」弘前市サイト
- 青森県八戸市(2010)「八戸市人口データ」八戸市サイト
- 青森県五所川原市(2010)「人口資料」五所川原市サイト
- 青森県十和田市(2010)「住民基本台帳人口」十和田市サイト
- 青森県むつ市(2010)「年齢別人口集計表」むつ市サイト
- 青森県つがる市(2010)「つがる市人口統計表」つがる市サイト
- 青森県中泊町(2010)「男女別年齢別人口ピラミッド」中泊町サイト
- 秋田県湯沢市(2010)「人口・世帯数の推移, 年齢別人口」湯沢市サイト
- 秋田県由利本荘市(2010)「平成22年9月30日現在の住民基本台帳人口・世帯数について」由利本荘市サイト
- 山形県米沢市(2010)「米沢市の統計2010」米沢市サイト
- 山形県酒田市(2010)「年齢別男女別人口」酒田市サイト
- 山形県長井市(2010)「年齢別人口構成 平成22年9月末日現在」長井市サイト(削除済)
- 山形県天童市サイト(2010)「平成22年9月末日現在の年齢別人口表」天童市サイト(削除済)
- 岩手県奥州市(2012)「年齢(各歳)・男女別人口集計表」奥州市サイト
- 福島県古殿町(2012)「統計書」古殿町サイト
- 茨城県日立市(2010)「日立市地区別・年齢別人口」日立市サイト
- 茨城県土浦市(2010)「土浦市地区別及び年齢別人口」土浦市サイト
- 茨城県古河市(2010)「男女・年齢別グラフ(過去のデータ)」古河市サイト
- 茨城県龍ヶ崎市(2010)「地区・年齢別人口(5歳刻)」龍ヶ崎市サイト
- 茨城県取手市(2010)「地区別人口と年齢別人口」取手市サイト
- 茨城県牛久市(2011)『統計うしく(平成22年度)』牛久市サイト
- 茨城県守谷市(2010)「平成19年以降の過去人口」守谷市サイト
- 茨城県坂東市(2011)「5. 年齢別人口」『22年度-統計坂東』坂東市サイト
- 茨城県神栖市(2010)「町丁字別・年齢別・地区別人口」神栖市サイト
- 茨城県つくばみらい市(2010)「市の人口」つくばみらい市サイト
- 茨城県小美玉市(2011)「過去の月別住民基本台帳人口」小美玉市サイト
- 栃木県足利市(2012)「『人口』に関する統計情報」足利市サイト
- 栃木県佐野市(2010)「人口と世帯数」佐野市サイト
- 栃木県鹿沼市(2010)「鹿沼市の人口」鹿沼市サイト
- 栃木県小山市(2010)「小山市登録人口(バックナンバー)」小山市サイト

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

- 栃木県下野市 (2010) 「年齢別人口統計」下野市サイト (削除済)
- 群馬県前橋市 (2010) 「人口及び世帯数」前橋市サイト
- 群馬県高崎市 (2010) 「人口及び世帯数」高崎市サイト
- 群馬県桐生市 (2012) 『平成22年度 統計年報きりゅう』桐生市サイト
- 群馬県渋川市 (2012) 『渋川市の統計 平成23年版』渋川市サイト
- 東京都総務局 (2010) 「住民基本台帳による世帯と人口」東京都サイト
- 新潟県三条市 (2010) 「過去の集計表・各歳表」三条市サイト
- 新潟県柏崎市 (2010) 「住民基本台帳人口・世帯数」柏崎市サイト
- 新潟県新発田市 (2010) 「住民基本台帳人口, 世帯数」新発田市サイト
- 新潟県小千谷市 (2011) 「平成22年国勢調査速報」小千谷市サイト
- 新潟県十日町市 (2010) 「住民基本台帳人口」十日町市サイト
- 新潟県燕市 (2010) 「平成22年度人口表」燕市役所から提供 (削除済)
- 富山県富山市 (2010) 「富山市の人口」富山市サイト
- 富山県魚津市 (2010) 「年令別人口統計表」魚津市サイト
- 富山県滑川市 (2010) 「人口／人口・世帯」滑川市サイト (削除済)
- 富山県砺波市 (2010) 「砺波市の人口 住民基本台帳から」砺波市サイト
- 富山県小矢部市 (2011) 「人口」『平成22年度版 統計書』小矢部市サイト
- 富山県射水市 (2011) 『射水市統計書 (平成22年度版)』射水市サイト
- 石川県金沢市 (2010) 「年齢別人口・世帯数」金沢市サイト
- 石川県小松市 (2012) 「平成22年校下, 男女, 年齢階層別人口」小松市サイト
- 石川県加賀市 (2010) 「年齢別人口」加賀市サイト
- 石川県野々市町 (2012) 「各歳別人口」野々市町サイト
- 石川県志賀町 (2010) 「志賀町の人口 (平成22年10月)」志賀町サイト
- 福井県福井市 (2011) 『平成22年度版 福井市統計書』福井市サイト
- 福井県越前町 (2010) 「越前町人口統計 (過去データ)」越前町サイト
- 福井県鯖江市 (2010) 「年齢別人口」鯖江市サイト
- 山梨県富士吉田市 (2010) 「年齢別人口集計」富士吉田市サイト
- 山梨県大月市 (2011) 『大月市統計書 平成22年版』大月市サイト
- 長野県長野市 (2010) 「長野市地区別年齢別人口」長野市サイト
- 長野県松本市 (2010) 「年齢別男女別人口 月次別 過去分」松本市サイト
- 長野県上田市 (2010) 「統計」上田市サイト
- 長野県千曲市 (2011) 『千曲市統計書 2010年版』千曲市サイト
- 長野県安曇野市 (2010) 「地区別年齢別人口 (平成22年)」安曇野市サイト
- 静岡県沼津市 (2010) 「5歳階級別人口」沼津市サイト
- 静岡県三島市 (2010) 「年齢別の人口数集計」三島市サイト
- 静岡県富士市 (2010) 「年齢別人口表」富士市サイト

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

- 静岡県磐田市 (2010) 「年齢別人口表」 磐田市サイト  
静岡県焼津市 (2010) 「年齢別人口」 焼津市サイト  
静岡県藤枝市 (2010) 「2010年9月末現在年齢別人口」 藤枝市サイト  
静岡県袋井市 (2010) 「人口・世帯数の推移 (人口動態)」 袋井市サイト  
静岡県菊川市 (2010) 「平成22年度年齢別人口 (毎月末更新)」 菊川市サイト  
静岡県伊豆の国市 (2010) 「今までの日本人人口」 伊豆の国市サイト  
静岡県川根本町 (2010) 「川根本町の人口・世帯数」 川根本町サイト  
奈良県統計課 (2011) 「各種人口統計」 奈良県サイト  
鳥取県鳥取市 (2010) 「町別世帯数, 年齢別人口」 鳥取市サイト  
鳥取県米子市 (2010) 「米子市年齢別人口統計表」 米子市サイト  
鳥取県倉吉市 (2010) 「人口集計表 (住所別・住民記録)」 鳥取県倉吉市サイト  
鳥根県松江市 (2007) 「年齢 (各歳)・男女別人口」 松江市サイト  
鳥根県浜田市 (2010) 「地区別5歳刻み表」 浜田市サイト  
鳥根県益田市 (2010) 「人口統計【平成22年度】」 益田市サイト (削除済)  
鳥根県安来市 (2010) 「安来市市内住所別人口集計表」 安来市サイト  
岡山県倉敷市 (2011) 『倉敷市統計書 平成22年版』 倉敷市サイト  
岡山県笠岡市 (2011) 「統計データ集」 笠岡市サイト  
岡山県備前市 (2011) 「年齢別人口調べ」 (同市役所から提供)  
広島県呉市 (2010) 「人口データ」 呉市サイト  
広島県三原市 (2010) 「人口集計表 (月ごと)」 三原市サイト  
広島県尾道市 (2010) 「住民基本台帳登録人口」 尾道市サイト  
広島県福山市 (2010) 「福山市の統計」 福山市サイト  
広島県庄原市 (2010) 「過去の人口・世帯数」 庄原市サイト  
広島県東広島市 (2010) 「東広島市 年令別人口表」 東広島市サイト  
広島県廿日市市 (2010) 「廿日市市の統計資料」 廿日市市サイト  
広島県府中町 (2010) 「府中町の人口・世帯数」 府中町サイト  
山口県下関市 (2010) 「(3) 年齢別人口」 下関市サイト  
宇部市 (2012) 「年齢別住民基本台帳人口」 宇部市サイト  
山口県山口市 (2012) 「年齢別人口 (5歳階級別)」 山口市サイト  
山口県萩市 (2011) 「萩市の人口について」 萩市サイト  
山口県防府市 (2010) 「防府市の年齢別人口統計」 防府市サイト  
山口県岩国市 (2010) 「年齢・男女別人口表 (日本人)」 岩国市サイト  
山口県光市 (2010) 「光市人口集計表」 光市サイト  
和歌山県田辺市 (2010) 「住民基本台帳 町別・年齢別人口」 田辺市サイト  
徳島県徳島市 (2010) 「地区別・年齢別人口・年齢階層別人口」 徳島市サイト  
徳島県三好市 (2010) 「平成22年 (2010年) 9月末現在人口」 三好市サイト



三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

香川県高松市 (2010)「登録人口(平成22年10月1日現在)」高松市サイト  
香川県坂出市 (2010)「住民基本台帳人口」坂出市サイト  
香川県善通寺市 (2011)「平成22年度善通寺市の年齢別人口」善通寺市サイト  
香川県さぬき市 (2010)「市民課業務紹介」さぬき市サイト  
愛媛県今治市 (2010)「年齢別男女別統計」今治市サイト  
愛媛県宇和島市 (2010)「指定区別年齢別男女別人口」宇和島市サイト  
愛媛県新居浜市 (2011)「年齢別男女人口」新居浜市サイト  
愛媛県西条市 (2011)「地区・年齢別人口」西条市サイト  
愛媛県松前町 (2010)「年齢別人口調べ(平成22年度)」松前町サイト  
高知県高知市 (2010)「高知市の統計」高知市サイト  
高知県室戸市 (2010)「室戸市の人口」室戸市サイト  
高知県南国市 (2010)「南国市行政区別人口集計表」南国市サイト  
高知県四万十市 (2010)「四万十市の人口」四万十市サイト  
福岡県大牟田市 (2011)「大牟田市の人口」大牟田市サイト  
福岡県久留米市 (2012)「年齢別人口(過去データ)」久留米市サイト  
福岡県直方市 (2010)「平成22年度の人口・世帯数」直方市サイト  
福岡県大川市 (2010)「年齢別人口」(市役所から提供)  
福岡県行橋市 (2010)「年齢別(5歳階級)人口及び人口動態」行橋市サイト  
福岡県中間市 (2010)「人口・世帯数」中間市サイト(削除済)  
福岡県春日市 (2010)「男女別年齢別人口構成表」春日市サイト  
福岡県大野城市 (2011)「統計おおのじょう」大野城市サイト  
福岡県宗像市 (2010)「統計データ」宗像市サイト(削除済)  
福岡県糸島市 (2010)「糸島市各種統計データ」糸島市サイト(削除済)  
福岡県那珂川町 (2010)「人口統計」那珂川町サイト(削除済)  
福岡県篠栗町 (2010)「年齢別人口(過去年)」篠栗町サイト  
福岡県志免町 (2010)「行政区別人口及び大字別・年齢別人口」志免町サイト  
福岡県水巻町 (2011)『水巻町統計資料「知るえっと」』水巻町サイト  
福岡県筑前町 (2010)「筑前町の人口・世帯数」筑前町サイト  
佐賀県佐賀市 (2010)「年齢別人口統計表」(市役所から提供)  
佐賀県鳥栖市 (2011)『鳥栖市統計書 平成22年版』鳥栖市サイト  
佐賀県伊万里市 (2010)「伊万里市地区別年齢別人口統計表」伊万里市サイト  
佐賀県武雄市 (2011)「平成22年版 統計情報」武雄市サイト  
佐賀県基山町 (2010)「人口の異動(平成22年)」基山町サイト  
長崎県佐世保市 (2012)『平成23年版佐世保市統計書』佐世保市サイト  
長崎県島原市 (2010)「島原市の人口及び世帯数」島原市サイト  
長崎県諫早市 (2010)「諫早市住民基本台帳人口」諫早市サイト

三大都市圏外所在中小都市若年層の2010年国勢調査時点の静態人口データの相違に関する考察(山田)

- 長崎県大村市 (2012) 「年齢別男女統計表」大村市サイト  
長崎県西海市 (2010) 「西海市の人口 (平成 22 年度)」西海市サイト  
長崎県長与町 (2010) 「年齢別人口表」長与町サイト (削除済)  
熊本県熊本市 (2011) 「人口統計表」熊本市サイト  
熊本県八代市 (2010) 「住民登録による八代市の人口」八代市サイト  
熊本県人吉市 (2010) 「人吉の人口」人吉市サイト  
熊本県荒尾市 (2010) 「住民基本台帳人口」荒尾市サイト  
大分県大分市 (2010) 「人口データ年齢別人口・世帯数」大分市サイト  
大分県別府市 (2010) 「別府市の人口」別府市サイト  
大分県中津市 (2010) 「人口と世帯の推移 (過去 5 年分)」中津市サイト  
大分県日出町 (2010) 「住基年齢別人口 (平成 13 年度～)」日出町サイト  
宮崎県宮崎市 (2010) 「男女別人口・世帯数」宮崎市サイト  
宮崎県延岡市 (2012) 『平成 23 年版延岡市統計書』延岡市サイト  
鹿児島県鹿児島市 (2011) 「年齢各歳, 男女別住民基本台帳人口」鹿児島市サイト  
鹿児島県鹿屋市 (2011) 「鹿屋市の統計 人口」鹿屋市サイト  
鹿児島県出水市 (2012) 「統計資料」出水市サイト  
鹿児島県薩摩川内市 (2008) 「町別人口・年齢別人口」薩摩川内市サイト  
鹿児島県日置市 (2011) 『日置市の統計 2010』日置市サイト  
鹿児島県霧島市 (2010) 「年齢別 (5 歳階級別) 人口」霧島市サイト  
鹿児島県伊佐市 (2011) 『平成 22 年度版 統計いさ』伊佐市サイト  
沖縄県那覇市 (2010) 「年齢層別人口」那覇市サイト  
沖縄県浦添市 (2010) 「浦添市の人口」浦添市サイト  
沖縄県糸満市 (2010) 「糸満市人口ピラミッド」糸満市サイト  
沖縄県沖縄市 (2010) 「沖縄市の人口」沖縄市サイト  
沖縄県豊見城市 (2010) 「字別年齢 (5 歳階級) 別人口」豊見城市サイト  
沖縄県うるま市 (2010) 「過去の人口統計」うるま市サイト  
沖縄県西原町 (2010) 「人口統計」西原町サイト